

科目名	経済原論			ナンバリング	RPP441	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	吉村忠晴	担当教員					

授業の概要	本授業では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方や基礎理論を体系的に理解することで、家計・企業・政府の経済活動を理論的に説明できるようになることを目的とする。授業では、ミクロ経済学における市場のメカニズム、家計の最適消費、企業の最適生産、およびマクロ経済学における国民所得の概念とその決定を取り上げ、それらについて経済学の理論に即して説明する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 完全競争市場の均衡について、グラフと計算から説明することができる。</li> <li>2. 完全競争市場の効率性について、グラフと計算から説明することができる。</li> <li>3. 家計における最適(予算制約下での効用最大化)消費量の決定理論について、グラフを用いて説明することができる。</li> <li>4. 企業における最適(利潤最大化)生産量の決定理論について、グラフを用いて説明することができる。</li> <li>5. 国民所得の概念について説明できるとともに、国民経済計算に基づき国内総生産(GDP)を算出することができる。</li> <li>6. 有効需要の原理について説明することができる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3年次において「経済学演習1」および「経済学演習2」の履修を考えている学生は、履修することが望ましい。</li> <li>2. 将来、公務員採用試験の受験を考えている学生は、履修することが望ましい。</li> <li>3. 新聞等で常に最新の経済動向を把握しておくこと。</li> </ol>						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>①完全競争市場の均衡(均衡価格、均衡取引量)を計算で求めることができ、グラフに描くことができる。</li> <li>②完全競争市場均衡における経済余剰を計算で求めることができ、グラフに描くことができる。</li> <li>③家計における最適(予算制約下での効用最大化)消費量の決定条件を正しく理解している。</li> <li>④企業における最適(利潤最大化)生産量の決定条件を正しく理解している。</li> <li>⑤国民所得の概念(フローの概念、三面等価の原則)を理解し、国内総生産(GDP)を計算で求めることができる。</li> <li>⑥ケインズの有効需要の原理を正しく理解している。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①需要曲線と供給曲線のシフトによる均衡価格、均衡取引量の変化を説明することができる。</li> <li>②政府の課税による厚生損失を計算で求めることができ、完全競争市場の効率性を説明することができる。</li> <li>③所得の変化や財の価格の変化による予算制約線のシフトと無差別曲線の性質を説明することができる。</li> <li>④企業の短期における損益分岐点および操業停止点の意味を説明することができる。</li> <li>⑤ケインズの有効需要の原理を踏まえ、均衡国民所得の決定方法を説明することができる。</li> <li>⑥財政政策と金融政策の手段とそれらの効果を説明することができる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
確認プリント	○						20%
練習プリント	○	○			○		40%
総合演習	○	○			○		40%
出席			○	○			欠席は、減点になることもある。

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「確認プリント」、「練習プリント」については、添削もしくは個別指導を行うか、授業において解答および解法の解説を行う。</li> <li>2. 「総合演習」については、事前に評価基準を示したうえで、添削もしくは個別指導の行い、学生からの要請があれば、いつでも開示できるように準備しておく。</li> </ol>
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	経済学に必要な計算能力の確認 経済学の課題(資源配分問題と所得分配問題)	
	第2回	経済学の分野	経済主体と経済活動、ミクロ経済学とマクロ経済学、市場構造	
	第3回	需要と供給 1	需要曲線と供給曲線、完全競争市場の均衡(均衡価格、均衡取引量の決定)	
	第4回	需要と供給 2	完全競争市場の価格調整メカニズム、需要曲線・供給曲線のシフト、代替財と補完財、上級財と下級財	
	第5回	完全競争市場の効率性 1	経済余剰と資源配分の効率性	
	第6回	完全競争市場の効率性 2	政府の経済活動への介入と厚生損失	
	第7回	家計行動の理論 1	予算制約線と無差別曲線の性質	
	第8回	家計行動の理論 2	無差別曲線の凸性と限界代替率逡減の法則、最適消費量の決定	
	第9回	企業行動の理論 1	企業の費用と収入、最適生産量の決定	
	第10回	企業行動の理論 2	損益分岐点と操業停止点	
	第11回	国民所得の概念と国民経済計算 1	国民所得の概念(フローとストック、三面等価の原則)	
	第12回	国民所得の概念と国民経済計算 2	国民経済計算	
	第13回	有効需要の原理 1	有効需要の原理、均衡国民所得の決定	
	第14回	有効需要の原理 2	財政政策と金融政策の手段と効果	
	第15回	総合演習	第14回までの授業内容について振り返るとともに、全範囲にわたる演習問題を実施する。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		スライドと配布プリントによる講義と授業内容に関する確認問題と練習問題を実施する。		
授業外学習の指示		授業の要点を講義プリントで確認しておく。授業中に行った確認問題、練習問題の結果から自分の理解度を確認し、理解不足の授業内容について復習をする。「総合演習」に向けての準備を行う。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用せず、毎回講義プリントを配布する。なお、配布された講義プリントは、クリアファイル等で整理・保存し、毎回の授業に持参すること。
参考書	特になし。
参考URLなど	特になし。
その他	